

久御山中×豪州WHS

5年ぶりに学校間交流

来年はオーストラリアで

久御山中学校とオーストラリアのウォリック・ステート・ハイスクール(以下、WHS)の学校間交流がこのほど行われ、来日したWHSの生徒が久御山でのたくさんの思い出を胸に刻み、帰国した。

この交流事業は、久御山中に赴任したALT(英語指導助手)がウォリック市出身だった縁から、両校が1993年から交互に生徒

を派遣し、国際親善を深めている。95年に姉妹校提携して相互訪問で友好の輪を広げている。

2019年の交流を最後に、新型コロナウイルスの影響でここまで途絶えていたが、5年ぶりに再開された。

今回来日したのは、日本の中学3年生から高校3年生に該当する生徒15人と教員3人。先月17日に久御山町入



5年ぶりの交流を喜ぶWHSの生徒、ホストファミリー、町関係者ら

りし、同22日まで、13人の久御山中学校の生徒宅にホームステイしながら、町内のこども

園、小・中学校、高校を訪れ、園児、児童、生徒との交流を満喫した。

WHSの生徒たちは期間中、カルタ、お手玉、折り紙、けん玉、だるま落としなど日本の伝統的な遊びに触れ、生け花を体験。久御山中で開かれた「久



WHSの生徒にお土産を手渡すホストファミリーの生徒たち

御山大作戦・音楽の部」にも参加し、久御山生徒たちの合唱に熱視線を送った。ホストファミリーとの自由な時間では、町内で開かれたマルシェイベントなどに参加した。

久御山滞在最終日の22日は、町民運動会に参加する予定だったが、あいにくの雨で延期に。平等院鳳凰堂や源氏物語ミュージアムを訪れた。

その後、役場コンベンションホールで開かれたさよならパーティーでは、信貴康孝町長が「お互いの文化を学び合い、言葉や国境を越えた友情を育んだことは、これからの人生で大きな財産になる。久御山町はみなさんの故郷。また、このまちでお会いできる日を楽しみにしている」と別れを惜しんだ。

WHSの生徒を代



久御山高校での生け花体験。出来栄に拍手して喜ぶWHSの生徒

表してイザベラ・シェファードさんは、役場職員のサポートやホストファミリーの心温まるおもてなしに感謝の言葉を述べ、「来年、久御山中学校の生徒がウォリックに来ることを楽しみにしています」と日本語で挨拶。

その後、WHSの生徒

一人ひとりが「久御山のまち、ホストファミリーが大好きです」など、今回の交流の感想を日本語で発表した。

その後、記念撮影や歓談などを行い、最後の思い出を作った。